

The New York Times



シェルターに引き取られる犬を減らすことが、安楽死をなくす第一歩



「シェルターを訪れて来る人に実施するシェルター」か？」とよく尋ねられます。「はい」と答えると苦い顔をされますが、私は「ノー、三(安楽死なし)施設の全てが犬にとって理想的な運営をしてるとは一概に言えない」と話を続けま

悲しい現状

しに力を注ぐのはとても尊いことですが、重要なのは、犬たちをどういう状態で保護しているかだと思います。安楽死に関しては、「殺すから残酷」「殺さないから尊い」と単純に判断できないのではないのでしょうか。

「シェルターを訪れて来る人に実施するシェルター」か？」とよく尋ねられます。「はい」と答えると苦い顔をされますが、私は「ノー、三(安楽死なし)施設の全てが犬にとって理想的な運営をしてるとは一概に言えない」と話を続けま

「シェルターを訪れて来る人に実施するシェルター」か？」とよく尋ねられます。「はい」と答えると苦い顔をされますが、私は「ノー、三(安楽死なし)施設の全てが犬にとって理想的な運営をしてるとは一概に言えない」と話を続けま

「シェルターを訪れて来る人に実施するシェルター」か？」とよく尋ねられます。「はい」と答えると苦い顔をされますが、私は「ノー、三(安楽死なし)施設の全てが犬にとって理想的な運営をしてるとは一概に言えない」と話を続けま

「シェルターを訪れて来る人に実施するシェルター」か？」とよく尋ねられます。「はい」と答えると苦い顔をされますが、私は「ノー、三(安楽死なし)施設の全てが犬にとって理想的な運営をしてるとは一概に言えない」と話を続けま

「シェルターを訪れて来る人に実施するシェルター」か？」とよく尋ねられます。「はい」と答えると苦い顔をされますが、私は「ノー、三(安楽死なし)施設の全てが犬にとって理想的な運営をしてるとは一概に言えない」と話を続けま

「シェルターを訪れて来る人に実施するシェルター」か？」とよく尋ねられます。「はい」と答えると苦い顔をされますが、私は「ノー、三(安楽死なし)施設の全てが犬にとって理想的な運営をしてるとは一概に言えない」と話を続けま

私たちができること

寺口麻穂

ドギーパラダイス!

犬と人間の快適な生活

第13回

安楽死(2)

在米22年。かつては人間の専門家を目指し文化人類学を専攻。2001年からキャリアを変え、子供の頃からの夢であった「犬の専門家」に転身。地元のアニマル・シェルターでアダプション・カウンセリングやトレーニングに関わり、個人ではDoggie Project (www.doggieproject.com) というビジネスを設立。犬のトレーニングや問題行動解決サービスを提供しつつ、13歳になるピットブル、ジュリエットとニュージャーシーで楽しく生活中。ご意見・ご感想は: info@doggieproject.com



てらぐちまほ

私の通うシェルターでも、アダプトされる犬一匹に対し、数匹の犬が捨てられる理由は様々です。犬が捨てられる理由は様々ですが、その背景には犬を飼うことに対する人間の安易な考えと責任のなさがあると思います。この悪循環の根本を作っている人間の考え方と行動を変えない限り、ノー、三の施設がどれだけ増えようとも安楽死はなくなりません。

どこかの家で幸せになっていたかもしれない犬たちが様々な事情で安楽死になることを考えると本当に胸が痛みます。その一方で、安楽死の数を減らすために私たちにできることがたくさんあるのも事実です。

①人間が世話できない数の犬が生まれるのを避けるため、飼い犬の去勢・避妊を奨励するほか、これらを義務つける法律を制定する

②「Puppy Mill (子犬製造工場)」と呼ばれる悪徳ブリーダーを撲滅するため、ペットショップで犬を購入せず、シェルターでのアダプションを推進する

③犬を飼う中で問題が起きた時に、「諦める・捨てる」という選択ではなく、犬の習性を学んで「解決する」道を取れるよう飼い主を教育する

私は、一人一人ができることは小さくても、多くの人が心がければ大きな変化が現れると信じています。ですから現状を説明することと、周りに理解してもらい、問題解決のために行動に移してもらえよう頑張っています。それがレインボーブリッジに送った犬たちへの約束であり、私の使命だと思っています。

次回から数回に渡って、私が愛して止まないピットブルについて取り上げます。この犬種は世の中で最も誤解されています。少しでも多くの人がピットブルを正しく理解できるようにと張り切っていますので、お楽しみに!